

# 和田堀公園調節池における修景整備（案）

## 1. 事業概要

### （1） 事業目的

- ・ 和田堀公園調節池は、「神田川流域河川整備計画（平成 28 年 3 月改定）」に基づき、1 時間あたり 75 ミリの降雨に対応する施設として、都立和田堀公園内に整備する調節池です。
- ・ 計画地は都立和田堀公園内であることから、和田堀公園基本計画に基づき、当施設は「うるおいのある親水空間の創出」にも寄与するものとして、整備を行うものです。

### （2） 施設諸元

- ・ 貯留量 : 17,500m<sup>3</sup> (25mプール約 60 杯分に相当)
- ・ 調節池の水深 : 平常時 約 0.3m  
洪水時 約 5.8m (最大)
- ・ 調節池形式 : 掘込み式調節池  
(平常時は親水機能を備えた公園として供用します)
- ・ 所在地 : 東京都杉並区大宮一丁目地先
- ・ 事業工程 : 本体工事 ……平成 30～32 年度頃まで  
修景工事 ……平成 33 年度頃から (本体工事終了後)

### （3） 計画・背景等

#### ① 善福寺川の治水対策について

- ・ 善福寺川は杉並区善福寺の善福寺池に源を発し、同区を蛇行して流れ中野区との区界付近において神田川に合流する、河道延長 10.5km の一級河川です。
- ・ 善福寺川では、1 時間あたり 75 ミリの降雨に対応できるように、治水対策として河道や調節池の整備を進めています。
- ・ 和田堀公園調節池は、1 時間あたり 75 ミリの降雨に対応する施設として、神田川流域河川整備計画（平成 28 年 3 月改定）に位置付けられた調節池です。

#### ② 和田堀公園について

- ・ 和田堀公園は昭和 39 年に開園した都立公園で、善福寺川沿いに和田堀池、野球場等のスポーツ施設、郷土博物館、広場等が点在しており、都民の憩いの場となっています（図-1）。また、当公園の西側には、同じく善福寺川沿いに都立善福寺川緑地があり、当公園と合わせて水と緑のネットワークを形成しています。
- ・ 今回の整備エリアは、和田堀公園基本計画において「うるおいのある親水空間の創出と洪水調節機能を兼ね備えたエリア」として位置づけられています。



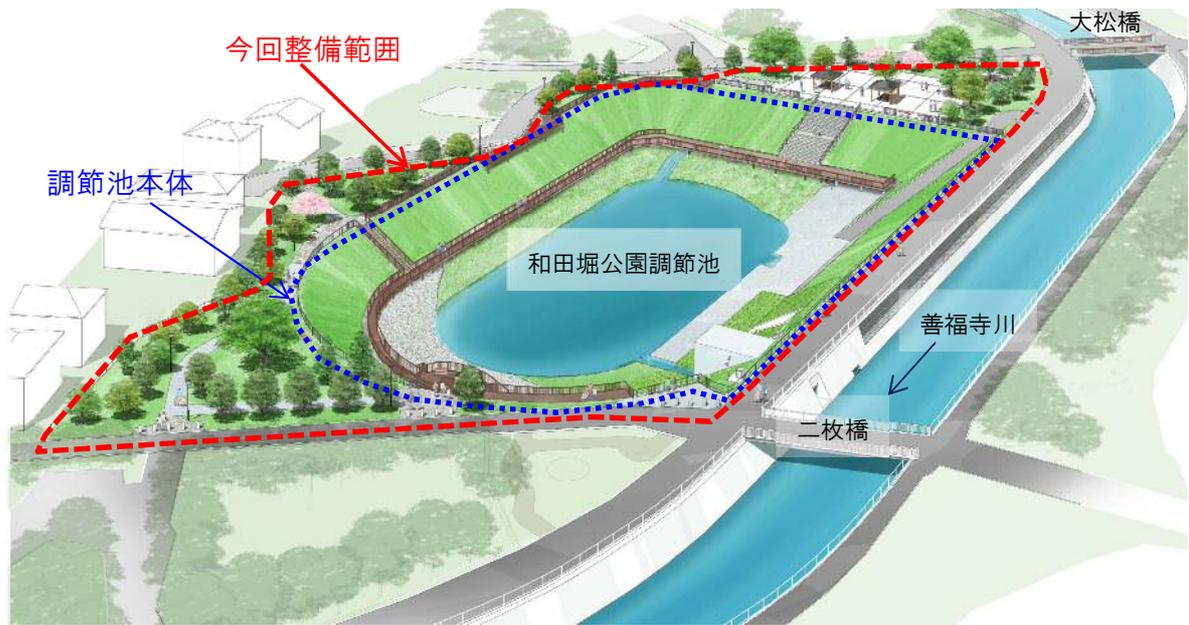


図-2 和田堀公園調節池 完成イメージ図

#### (4) 調節池の利用イメージについて

##### ① 平常時

調節池内には、水深 30cm 程度の水面を設けます。

水面部の水は、善福寺川の流水を平常時用の取水ゲートから導水します。合わせて、水面部の水をポンプによって排水することで、水を循環させます。

水面の周囲にはデッキを配しており、利用者の方が水面部周辺を回遊するとともに、水面を近くから眺めることができます。(水の中に入ることはできません)。

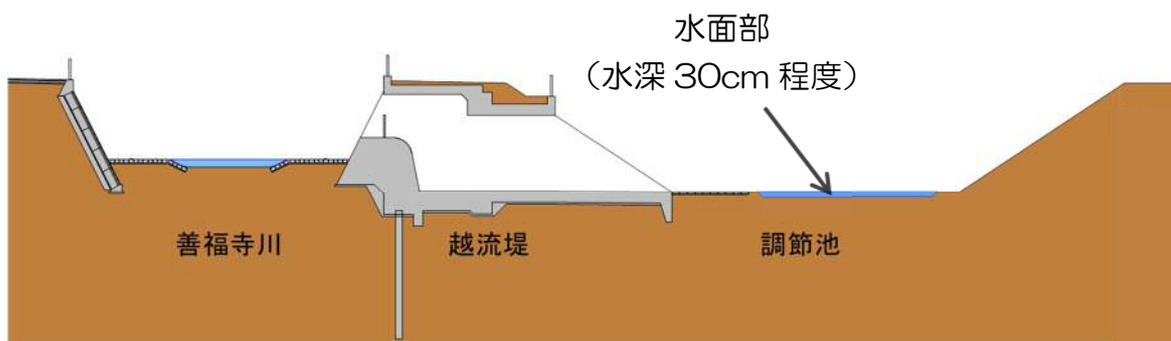


図-3 調節池の利用イメージ (平常時)

##### ② 洪水時

大雨等により、善福寺川の水位が上昇した場合は、川沿いに設けた越流堤から洪水を取水し、調節池内に取り込みます。調節池内の水位は、最大で 5.8m 程度まで上昇し、洪水の規模によっては、調節池の底面部のデッキ部も水没する場合があります。

このため、降雨時は、利用者の安全を重視し、調節池内に入るための階段・デッキの入口は閉鎖します。デッキ部等に利用者がある場合は、係員が場外に誘導します。

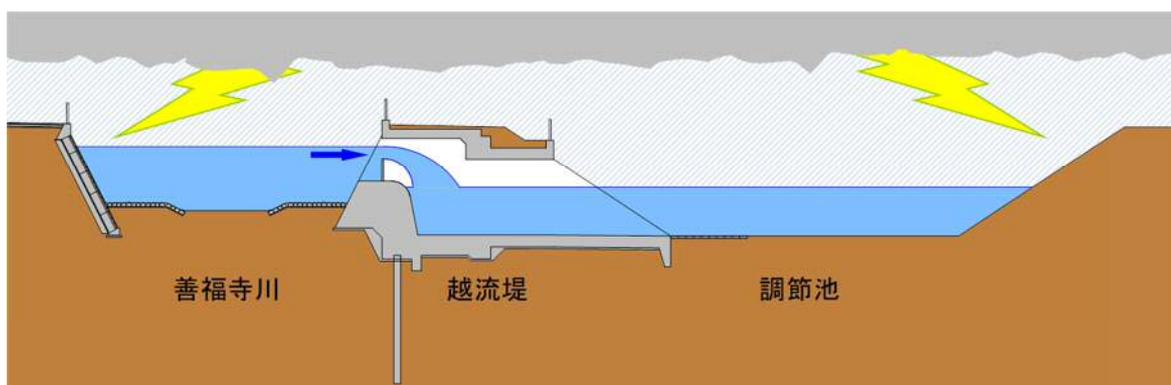


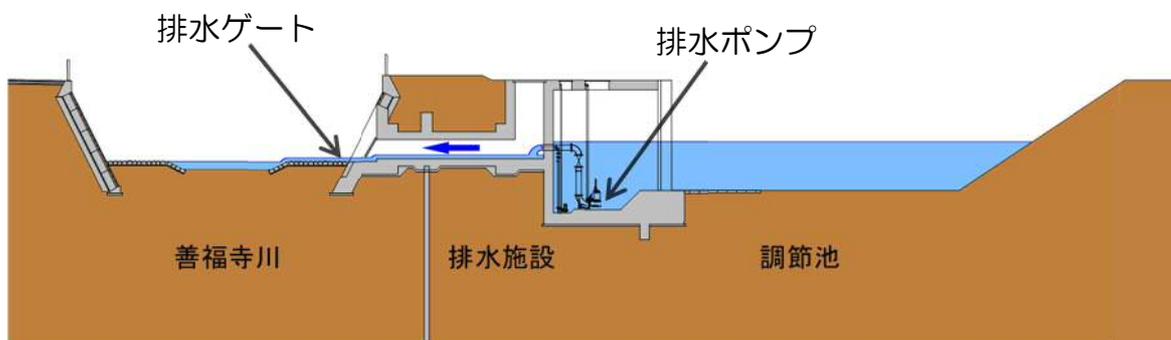
図-4 調節池の利用イメージ (洪水時)

##### ③ 洪水後 (清掃時)

善福寺川の洪水取水後、調節池内にたまった水を、ポンプにより善福寺川に排水し、その後、調節池内の清掃を行います。この間、調節池内は閉鎖します。

洪水時には、希釈された下水が善福寺川に流れ込むことから、調節池内の塵芥処理や洗

浄に加えて、消毒を行う予定です。清掃に要する期間としては、近傍調節池（和田堀第六調節池）の実績から、概ね2～3週間程度を想定しています。清掃の完了確認後に、調節池内を開放します。



図－5 調節池の利用イメージ（洪水後・清掃時）

（参考）洪水時の善福寺川の水質について

善福寺川流域の下水道は、合流式下水道（家庭などからの排水と雨水を一緒の下水管で処理場まで排水する方式）となっています。

合流式下水道では、大雨が降った際、下水管の能力を超える量の水は、未処理の状態で河川に放流されることがあります。この放流水は、降雨の初期には、下水管に溜まっていた汚濁物が混ざるため、水質の悪い状態で放流される場合があります。

以上のように、本調節池は平常時の親水機能に加えて、洪水時の調節池機能を併せ持ったものとなります。さらに善福寺川が合流式下水道であり、洪水時には汚水混じりの雨水が混入することから、調節池の仕様や利用方法についても、これに配慮したものとなります。

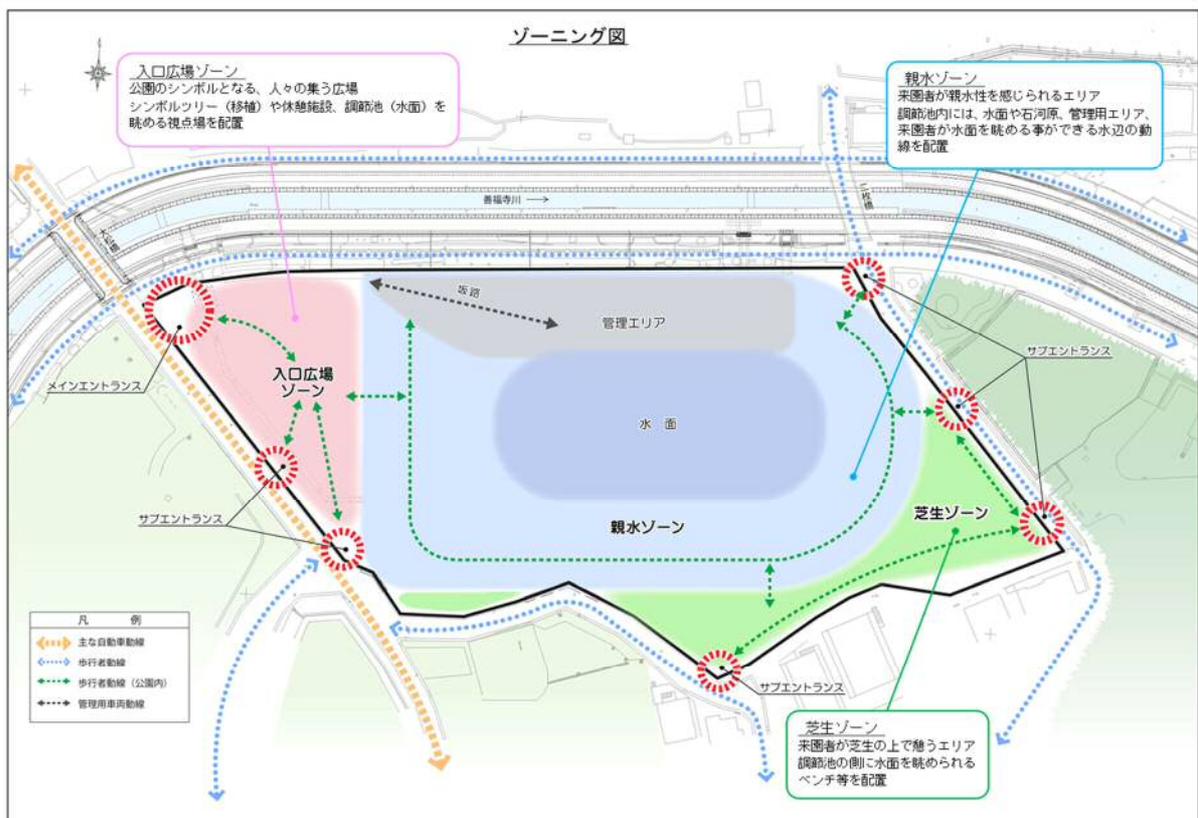
このような施設は全国的にも例があまりなく、調節池の機能を適切に表現する呼称については検討中です。みなさまからご意見をいただければ幸いです。

## 2. 修景整備（案）

### （1） 基本コンセプト及びゾーニング

和田堀公園基本計画において、当エリアは「うるおいのある親水空間の創出と洪水調節機能を兼ね備えたエリア」として設定されています。これに基づき、整備エリア内を次のようにゾーニングしました。（図－6）

- |           |                    |
|-----------|--------------------|
| ① 親水ゾーン   | ：水面、デッキ、石河原、管理用エリア |
| ② 入口広場ゾーン | ：舗装広場、休憩施設、ベンチ     |
| ③ 芝生ゾーン   | ：芝生地、ベンチ           |



図－6 和田堀公園調節池 ゾーニング図

### （2） 各エリアの整備内容（別紙計画平面図（案）参照）

#### ① 親水ゾーン

- ・ 調節池内には、平常時は水深 30cm 程度の水面を設けます。
- ・ 水面周囲は、地被類等の緑化に加え、石河原を配置する等、潤いのある水辺空間を創出します。
- ・ 水面の北側部分には、洪水取水後の清掃等のための管理用スロープと管理用平場を設けます。なお、当該エリアは一般利用出来ません。
- ・ 洪水を取水した場合は、高圧洗浄等の清掃が必要になるため、水面の池底部は石張り仕上げにする等、清掃に耐えられる仕様を採用します。
- ・ 親水性を感じられる水辺の導線として、調節池の池底部と天端付近にデッキを配置します。

入口広場や芝生エリアの園内の広場を繋ぐ導線であり、利用者はデッキから水辺を眺めることができます。

- デッキには一部でゆったりとした幅員の確保やベンチの配置等、水辺の憩いの場を設けます。

## ② 入口広場ゾーン

- 公園のシンボルとなる、人々の集う広場で、大松橋側の区道からの入口となります。
- 休憩施設（四阿、ベンチ）を配置します。休憩施設は水辺を眺める視点場としても機能します。
- 舗装等の表面仕上げは透水性の高いものを採用し、今回事業エリア内からの雨水の流出抑制を図ります。
- 広場内の植栽帯部には、ツツジ等、近隣在来の低木類を基本として植栽します。  
この他、当計画地にもともとあった高木類（ケヤキ、ヤマモモ、サクラ）を移植予定です。
- 公園や調節池の概要等を示した案内看板を設置する予定です。
- 当広場内に、バリアフリー機能を備えたトイレを設置する予定です。

## ③ 芝生ゾーン

- 来園者が芝生の上で憩える広場であり、二枚橋側及び調節池南側の区道からの入口となります。
- 調節池の側には水面を眺められるベンチを設置します。
- 芝生エリア内の園路は、入口広場と接続し調節池周囲の回遊性を確保します。
- 芝生用の客土には、透水性の高い土の採用を検討する等、今回事業エリア内からの雨水の流出抑制を図ります。